

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 確かな学力を携えて、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 2 それぞれの夢に展望を持たせ、自らの力でそれを実現できる生徒を育成する。
- 3 他者の痛みがわかる、やさしく心豊かな生徒を育成する。
- 4 美化意識や規範意識を高く持ち、自己管理が出来る生活習慣を確立できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 地域に根差した高校として、確かな学力の育成することでそれぞれの進路実現に対応する

(1) 進路目標を意識し、「わかる授業、考える授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 相互授業公開や研究授業、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 26 年度 76%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には 85%にする。

イ 可能な範囲での進路目標ではなく、それぞれがより高い進路目標をめざす。

※国公立大学、難関大学、看護学校合格者や公務員就職者など少なくとも一人ずつは搬出し続ける。

(2) 普通科総合選択制の改編を見据え、教育課程表など将来像を具体的に打ち出す。

(3) 教育活動とその成果を地域に発信していく。

2 思いやりの心を育てる

(1) 人の気持ちが理解できる人権教育を進める。

※対人関係に起因するトラブルを（平成 26 年度 2 件）を 0 件にする。

3 心安らげる学校づくり

(1) 規範意識をさらに醸成する。

ア 遅刻・早退・欠席はもちろん、基本的な生活習慣を確立する。

※全学年年間遅刻件数（平成 26 年度 5,604 件）を毎年 500 件ずつ減らし、平成 29 年度には 3,000 件にする。

(2) 美化意識を醸成し、清潔で整備された心地よい安心・安全な教育環境を実現する。

ア 日々の清掃活動の充実を図り、施設の維持管理や設備の更新に積極的に取り組み良好な環境づくりをめざす。

※有志による清掃活動参加率（平成 26 年度 15%）を毎年 5%ずつ増やし、平成 29 年度には在籍生徒数の 30%にする。

イ 火災だけでなく、地震や津波などを想定した防災教育を積極的に行う。

※定期的な防災訓練の見直しに加え、府や市の防災訓練などにも積極的に協力し、防災への備えを充実させる。

(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。

ア 部活動やボランティア活動を通じて、集団の中で活動することの重要性を見出さず。

※部活動参加率（平成 26 年度 47%）を毎年 5%ずつ引き上げ、平成 29 年度には 60%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>アンケートを実施し、回答率、生徒 94.4%、保護者 37.2%、教員 100%により得られた回答を吟味した結果から、以下のような特徴的な傾向が見いだされた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラス、学校が楽しいと感じている生徒が多い。 ポイント 84% 但し、逆に、全く当てはまらない生徒もおり、尚一層丁寧な指導をする必要がある。 2. 服装や頭髪指導は、きちんとされている。ただし、学校と家庭の間で意識の差がある。ポイント 91% 3. 授業がわかりにくいと答えている生徒も多く、尚一層の工夫と改善が求められる。 4. 行事に関心を示す生徒が多く、楽しみにしている。内容の工夫等、さらに充実させていく必要がある。 ・文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に参加するのは楽しい。 ポイント 70% 5. 生徒は、悩みや相談に対して、もっと親身になって応じて欲しいと思っている。 6. 実力診断テストについては、必要性は認めている生徒も多い反面、当てはまらぬと答えている生徒も一定数いる。内容の吟味が必要なのかもしれない。 7. 人権や災害訓練などについて、教員は、よく頑張っていると思っているが、生徒には、十分伝わっていないところもある。より一層、機会を効果的に活用していく必要がある。 8. 教員は、部活動・外部との連携に努めているが、まだ、充分には生徒には浸透していない。 9. 授業公開等をしているが、外部からの見学等が少ない。他にも学校を開く取組みを工夫し推進していく必要がある。地域や他校との連携を生徒にも分かりやすいように進めていく必要がある。 10. 学校全体で組織的に取り組んでいる生徒指導ではあるが、日頃の教職員の話し合いの場がやや少なくなっているようである。内容や指導体制について再考すべき時期かもしれない。 11. 記述項目の内容からも、<u>生徒指導や授業に関するもの、行事に関</u> 	<p>第 1 回 平成 27 年度 6 月 4 日（木） 14 時 30 分 ～ 16 時 30 分 ○ビオトープエリア （委員の質問に対して）改修予算は出ない。頓挫している状態である。ビオトープに面した化学準備室については現在試験的に網戸を付けた状態で、抜本的な解決はまだである。現在のところ予算面からも難しい。本校舎は昭和 45 年くらいに建てられ、建て替えは 50 年が基準となっているが、府の財政の関係で 80 年になった。知恵を出してやっていきたい。 （委員より）部活をやっている子を集めてやるのもありでは？草刈くらいはできるのでは？お金がないと言っているが、生徒にやらせるのもありかと。人材はある。部活をやっているから力もあるし……。</p> <p>○部活動について ニーズは変わってきている。ダンス部やパソコン部など、教師がついていけない部活もある。生徒との接点を持つためにもクラブ指導は大切である。気の合った友達とチーム人数が増えている。社会体験と学校体験がうまくマッチしているクラブは人数が増えていると思う。流行や社会ニーズ、世論がそういう風に導く。教師が努力しても難しい部分がある。全国大会等に行っているというネームバリューがあるところに行きたがる。最近そういった保護者が多い。就職に関する講話も、みんな報酬のことしか気にしない。しんどい系のクラブは少なくなるのは仕方ないと思う。親が現実を見るのができていない。 ただ、部活動も元気になったら学校も元気になるのでは？ 生徒も落ち着いてきて進路にも役立つのでは？ 部活によっては将来につながる。仲間とのコミュニケーションがとれる。その際、アルバイトをしている人の割合は何%か調べるといい。「りんくう翔南へ行ったらバイトできる」という感覚があるのでは？そういう実態が子どもの中にはあると思う。その率が下がらない限り、クラブ率は上がらない。クラブだけでなく、ボランティアができる生徒もいるので、その面もアピールしては？小学校で学習支援、土曜日、月 1 回の年 6 回、子どもの居場所づくりをしているが、りんくう翔南の生徒もボランティアに来てくれている。生活が厳しい児童は、りんくう翔南の生徒が、関わりながら声をかけてくれるだけでも、子どもにとってはうれしい。小学校でも将来を考える時に身近なモデルが少ないので、また来てもらいたい。</p>

するものが多く、今後ともこれらの項目について、さらに前向きに取り組んでいく必要がある。

第2回 平成27年度10月15日(木) 14時30分～16時30分

○学校改編

・アクティブラーニング教室を具体的イメージ

現在は講義形式的な授業で、先生が前で話したり板書したりするのを生徒が聞く「一方向」的である。しかし今後友達同士で意見を交換したり、グループワーク的なことをやっていく。生徒の主体的な授業をイメージしている。プロジェクターやWi-Fiなどつけていきたい。このチャンス(学校改編)を大切にして変化していけたらいい。管理的な授業で、生徒を大人しくやらせるのが微妙になってきた。調査研究を学びの場にできたらいい。

(委員の世代の)自分の受けた教育は管理されたものなので、アクティブにして進学率が上がるのかという気持ちがある。日々私は生徒に接していないので、我々にはわかりにくい。プレゼンテーションソフトを使うようになってICT教育が大事になってきている。他校ではリアルタイムの発表などをプレゼンテーションソフトで行っている。ネットの利用ではフィルタリングをかけたらいいいとなっているが、子どもからの指摘もある。大人より子どもの方が学習のレベルが高い、保護者や教師など大人の方が、情報機器に疎い。個人情報等もいろいろ危ない。

子どもたちはわかっているのに、大人がわかっている。大人が知らないと……。 (生徒は)いらんことをして、個人情報出している。ルールづくり、しっかりとしたルールを作らないと。タブレット型PCなど。(校長より「就職もいるので、うちの進路保障で、アクティブラーニングルームを活用して、Wi-Fiで求人票なども載せられるように、この教室も使っていきたい。」)

・生徒指導、学習指導

生徒指導でも、就職などのイメージを持って指導されているのがわかるが、教員は大変。現在でも30～40年前からいただいている会社もあってすごい。教員が面接指導だけでなく、1人1人大事に思っていて指導されている。1人1人に指導しているからこそ、全体の指導になる。表面的にはスマホとか使っていけるが、まだまだ幼いので細かく見てやってもらいたい。

今年始め、県議員の事例発表をしていたが、県の役人の発表はみんな聞いていない。高校生も帰っていた。3日目の全国高校生サミットでは、高校生のプレゼンテーションソフトによるプレゼンが面白かった。ワークショップ形式でやっていた。SSHの学校だけでなく色々な学校でできたらいい。見守り隊でコーディネートする役割だが、全国で大きくできている。そのようなところで発表しようという発想があれば(良いのでは……)、うまく引き出してやったらいい。

第3回 平成28年1月28日(木) 14時30分～16時30分

○「学校教育自己診断アンケート集計結果」を受けて

泉南高校と比べ、ずいぶん変わった。世の中の全体を見て、高校生だけでなく、小学生～大学生(院生)見ていると、おとなしくなった。真面目になった。失敗しないようにする、違うことをするのに不安があると感じられる。

無理しなくてよいという地域。だが、地域に貢献してくれる人材が育っているが、もう少し上を目指してほしい。教育でくすぶっているものを引き出せないのか。教育の場で、(他人である)先生との会話で引き出してほしい。生徒に何をしたいのかを聞いてあげて答えてあげてほしい。生徒は大学などがどのような進学先なのかかわからない。やりたいことを持っている生徒を見つけてあげてほしい。まずは目指すことを意識させてあげてほしい。教師だけが頑張ってもできないので、専門分野の人を呼んであげてはどうか。生徒、保護者の結果で差が開いていない点も注目すべき。部活もあまり活発ではないと。難しい問題ではあるが、この点を上げれば学力向上にもつながるのではないのか。

部活動を一度やめて二度目に入るのはなかなか難しいので、二度目も入る機会を学校側で用意してあげてはどうか。生徒指導については、少しでも頑張りたいと考えている生徒に合わせてあげるとよいと思う。言葉を知らないケースが多々あるので、わからない言葉についてしっかりと対応してあげないと、言葉の点でつまるとそのまま授業の内容がわからなくなってしまう。より教師側の準備が重要となってくると思われる。

大学の進学、国公立をめざしたいと思う生徒が本校を本当にめざして入ってくるのか。「アルバイトができるや自由である」とかの声が聞こえてくる。コミュニケーション能力の向上を目指すのが本校の特色である。今の子供たちは言いたいことがあっても言わない。コミュニケーション能力が社会に出たときにより重要である。クラブ加入率よりもコミュニケーション能力の充実の必要性を保護者としては感じる。

受験対策授業などを特別に実施することはできないのか。分けてあげるのはどうか。統一的な教育より個々に特化した授業を与えてあげるのがよいのではないのか。授業が面白いとかわかりやすいなどが求められる。しっかりと先生を育てることも。小中学校でも求められている。

泉南地域の(地理的な)位置としても進学は難しい。大学体験ツアーというものを実施し、大学の雰囲気を知る機会を作ってみるのも良いのでは。

授業の状況で、目標を持った生徒を送り出せているのかが重要になってくるのではないのか。進学がすべてというわけではないが、大学進学が少ない要因として、大学を知らないというのがあるのではないのか。大学や専門学校の中途退学の率は専門学校の方が倍である。保護者に対しても大学を知ってもらう必要がある。入試は成長できる良い機会である。

専門学校への進学が多いが、生徒はお金を無駄にはしない者が多い。しかし、視野が狭くなっている場合があるので、もっと視野を広げてもらえば夢実現につながるのではないのか。コミュニケーション能力の向上の重要性には同意できる。

言われたことはやるという生徒が多い。この点を上手く活用していけばよいのではないのか。世間で言われるアクティブラーニング反映していけるのではないのか。ICTを使った学習の対応を考えていかないとモチベーションの維持が大変になってくると考えられる。中学生も高校生も、発表会などを通じてアクティブラーニングのようなことはよく行っている。大阪府に予算がないため、アクティブラーニングの案があっても、実現が難しい面がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、考える授業」をめざした授業改善</p> <p>(2) 普通科総合選択制の改編を見据えた将来構想のまとめ</p> <p>(3) 教育活動とその成果を地域に発信</p>	<p>(1)・授業研究週間を中心に、授業相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック</p> <p>・授業支援や進路指導のため ICT 機器の利用拡大。</p> <p>・進路指導部とガイダンス室による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック</p> <p>・定期考査前補習や進学希望者補習の実施とともに、特講（進学補習）実施内容の充実や夏期進学集中講座の拡充</p> <p>・大学・短大・専門学校との連携推進</p> <p>・国公立大学や難関大学に毎年一人は合格させる。</p> <p>・それぞれの進路実現のサポート（一つ上の進路目標を意識する）</p> <p>・家庭学習を促す（課題の利用など）</p> <p>・配慮を要する生徒への支援</p> <p>・英語をより身近なものとするため、国際交流行事を取り入れる</p> <p>(2)・かつてのビオトープエリア再利用について具体的な計画・実行に取り掛かる。</p> <p>・普通科総合選択制改編後の本校の姿をより具体的に職員会議への提示する。</p> <p>(3)・学習発表会での成果発表や普段の授業の公開</p> <p>・小中学校へ本校教育活動の紹介と連携強化</p>	<p>(1)・授業アンケート結果微改善。 （平均 H25:2.97→26:2.99）</p> <p>・ICT 機器活用年度末調査で満足度を 50%にする。（平成 26 年度 43.0%）</p> <p>・国公立大学や公務員合格を絶やさない。</p> <p>・進路未決定者（進学浪人を含まず）を 10%以下にする。（平成 26 年度 18 人 9.9%）</p> <p>・家庭学習の時間を平均 20 分以上にさせる。</p> <p>・配慮を要する生徒の校外活動の回数を最低 2 回以上にする。（平成 26 年度 2 回）</p> <p>(2)・ビオトープエリアの教育活動への再利用計画を実現可能なものにする。</p> <p>・将来構想案を学校ホームページ等へ公表する。</p> <p>・教育課程表（案）の作成。</p> <p>(3)・学校ホームページのイベントごとの更新（毎月）</p> <p>・交流行事の回数（年 2 回）</p> <p>・授業外部公開（年 2 回）</p>	<p>(1)</p> <p>・授業アンケート結果。（平均 H26:2.99→H27:2.99）（△）</p> <p>・一斉配信モニター活用アンケートで H27 満足度 49.9%。（△）</p> <p>・国公立大学 1 名、公務員 1 名。（センター入試現役受験 5 名）（◎）</p> <p>・進学浪人以外の進路未決定者割合 6.3%（△）</p> <p>・家庭学習時間平均 10 分。（△）</p> <p>・配慮を要する生徒の校外活動の回数少なくとも 6 回。（○）</p> <p>(2)</p> <p>・普通科専門コースへの改編が決定に伴い、ビオトープエリアの再利用計画より、コース制改革案を中心に。教室整備計画まもなく着工へ。（○）</p> <p>・普通科専門コースへの改編案、まもなくホームページへも公表予定。（△）</p> <p>・新教育課程表もほぼ作成済。（○）</p> <p>(3)</p> <p>・部活動の様子を中心に更新順調。（○）</p> <p>・レスリング国際親善試合をはじめ、交流行事活発。（○）</p> <p>・授業公開実施済（5 月、11 月）（○）</p>
二 思いやりの心を育てる	<p>(1) 人の気持ち可以理解できる志学や人権教育の計画立案</p>	<p>(1)・志学、キャリア教育を想定した総合的な学習の時間やホームルーム活動の充実</p> <p>・今必要なテーマや新しいジャンルから見つめなおす人権教育</p> <p>・ICT 機器（一斉配信システムや教室ディスプレイ）を利用した志学や人権教育教材活用の充実</p> <p>・生徒の人間関係の変化を見逃さず、教職員でより綿密な情報共有の場を設ける。</p>	<p>(1)・学校教育自己診断による志学やキャリア教育の成果を測ると同時に生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」：「自分のクラスは楽しい」：「よくあてはまる」+「ほぼあてはまる」項目）を 80%にする（平成 26 年度 76%）</p> <p>・今必要な人権テーマを扱った HR や職員人権研修を年 2 回以上実施する</p> <p>・ICT 機器を有効に活用した人権教育を年 2 回実施する。</p> <p>・対人関係に起因するトラブルを 0 件にする。（平成 26 年度 2 件）</p>	<p>(1)</p> <p>・生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」：「よくあてはまる」+「ほぼあてはまる」項目）83.8%。（◎）</p> <p>・今年は HR で「ヘイトスピーチ」「パワハラ・セクハラ」「命の大切さ（交通被害家族講演）」、職員人権研修では「キャリア支援（金銭教育）」「汎汎性発達障害」など取り上げた。（○）</p> <p>・学年ごとに、ICT 機器（一斉配信）を有効に活用した人権教育をのべ 3 回以上実施した。（○）</p> <p>・本年度対人関係に起因するトラブル 2 件（△）</p>
三 心安らげる学校づくり	<p>(1)「規範意識の高い学校」をめざす</p> <p>(2)「美化意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。」</p> <p>(3)「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」</p>	<p>(1)・高校生として規範意識の再認識</p> <p>・登下校指導による通学マナーの向上</p> <p>・声楽選択生徒による式典（始業式・終業式）での校歌斉唱</p> <p>・保護者との連携をよりすすめながら服装頭髪一斉指導の実施する</p> <p>(2)・トイレ清掃を含めた学校内外美化活動の充実</p> <p>・清掃活動の充実</p> <p>・歯磨きスペースを利用しやすくし、生徒保健委員会を中心に啓発活動をすすめる。</p> <p>・性感染症防止教育などの推進</p> <p>・防災グッズの充実、防災・防犯（避難）訓練の見直しや府や市の防災訓練への協力</p> <p>・憩いの場として、中庭（噴水）スペースを整備する</p> <p>(3)・部活動、ボランティアや生徒会活動の啓発</p> <p>・地域中学校との交流をより一層深める</p>	<p>(1)・停学を伴う特別指導案件を 3 件以下にする（平成 26 年度 7 件）</p> <p>・全学年総年間遅刻件数を 4,000 件以下に（平成 26 年度 5,604 件）</p> <p>・苦情電話の数</p> <p>・指導生徒数</p> <p>(2)・トイレ清掃参加者を 20 人以上に（平成 26 年度 9 人）する。</p> <p>・歯磨きをする生徒の割りあいを 5%以上とする。</p> <p>・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の 20%に（平成 26 年度 15%）</p> <p>・性感染症防止講演を引き続き毎年行っていく。</p> <p>・防災グッズや避難準備物を徐々に準備していく。</p> <p>・ベンチの増設、ガーデンオブジェのリニューアルを行う。</p> <p>(3)・外部講師を招へいするなど部活動参加生徒率を 55%以上にする（平成 26 年度 47%）</p> <p>・部活動について、中学校との合同練習の回数を年 20 回以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>・停学を伴う特別指導案件 18 件。（△）</p> <p>・全学年総年間遅刻件数。（△）6,474 件（在籍生徒一人あたり H27:9.3 件、H26:8.5 件）</p> <p>・苦情電話の数やや減。（△）</p> <p>・服装頭髪指導生徒数・保護者からの苦情数よこばい。（△）</p> <p>(2)</p> <p>・トイレ清掃参加数 8 名。（△）</p> <p>・歯磨きをする生徒数よこばい。ただし、マウスウォッシュを使用する生徒増。（△）</p> <p>・通学路清掃参加者 7 月 12 月共在籍数の 19%。（△）</p> <p>・性感染症防止講演、今年度も 6 月に実施済。（○）</p> <p>・防災ヘルメット、保存用飲料水など徐々に蓄えた。（○）</p> <p>・噴水回りにベンチ 4 基増設、ガーデンオブジェリニューアル。憩いの場として整備順調。（○）</p> <p>(3)</p> <p>・4 月に元全日本ラグビー選手を招へい。部活動参加を促すも参加率 44%。ただし、体育系の参加率増。（△）</p> <p>・野球部・サッカー部・バスケットボール部など合同練習の回数はのべ 20 回はるかに超える。（○）</p>